

えん罪 姫路・花田郵便局強盗事件

大阪高裁でジュリアスさんの再審決定を

ジュリアスは事件に関係ない—真犯人が自首して供述

2001年、アフリカ系の男2人による郵便局強盗事件がおきました。郵便局近くにあるジュリアスさんが経営する倉庫から犯行に使われた車や被害金約2000万円が見つかりナイジェリア出身のジュリアスさんが逮捕されました。

しかし翌日、その倉庫で働いていたオモ・デーブ氏が改心して自首。「共犯者はオースティンという男。奪った金が思っていたより大金で怖くなり、ジュリアスに相談しようと思って勝手に金や車を倉庫に隠した。オースティンはどこかに行った」と供述。

ところが裁判では「ジュリアスがいないと倉庫は使えない」というだけの理由で懲役6年の判決。ジュリアスさんは服役後、再審を請求しました（再審請求の裁判では倉庫所有者の妻も倉庫を開けっぱなしにしてジュリアスが不在なことがあったと証言しています）。

こんなにある！証拠隠し、証拠改ざん

再審請求では警察の証拠隠しや証拠改ざんを裏付ける証拠が多数提出されています。

たとえば現場にオモの共犯者が落として行った目出し帽（マスク）にジュリアスさんともオモとも一致しない毛髪がついているという警察の鑑定書が隠されていました。

また、郵便局の防犯カメラの画像の一部にノイズが入って見えないのは、オモがマスクを脱いでいないこと（＝上記の慰留マスクはもうひとりの共犯者のものであること）が分かる場面を人為的に消すためであったこと

も分かりました。

さらにフライデーという人物がオースティンという男は実在しないと供述した調査がありますが、フライデーは供述したことを否定しており調査の指紋は別人のものです。

加えて、写真に写ったオースティンの髪の毛は書き足して長髪にされていました。

一連の証拠改ざんはオースティン（真犯人）の存在を隠すためと考えられますが、神戸地裁は請求を棄却しました。

無罪にならないと国外退去—家族離散

ジュリアスさんは無罪にならないと国外退去で妻子と離散させられます。これは家族の人権問題でもあります。ぜひ、大阪高裁のたたかいにご支援を。



オースティンの顔写真に髪の毛を塗り足した形跡。



ビデオに映っているオモは、帽子を脱ごうとしたが結局、脱がずに逃げた。その場面が消されているので、落ちていた帽子はオースティンではなくオモの帽子のように誤魔化されている。